

金沢区地区別データ集

データde金沢

DATA de KANAZAWA

目次

1. 地区の概況———1
2. 町丁別人口世帯の動向———2
3. 地域の施設等の分布状況———3
4. 年齢別人口と人口移動———4
5. 世帯の状況と居住歴———6
6. 地区の特徴と動向———7



金沢区幸せお届け大使
ほたんちゃん

令和7年1月発行

金沢区地域振興課地域力推進担当

1. 地区の概況

図1 地区の位置

*地形図は国土地理院 基盤地図情報(数値標高モデル)5mメッシュにより作成。



表1 人口、世帯数、年齢別人口等の動向

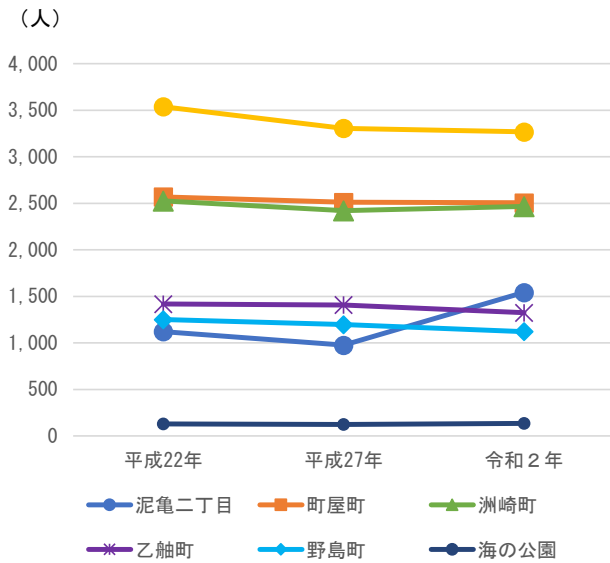
	平成22年	平成27年	令和2年	平成22～27年増減数	平成27～令和2年増減数	平成27年比率	令和2年比率	令和2年金沢区比率	令和2年横浜市比率
人口 (人)	12,552	11,942	12,362	▲ 610	420	100.0	100.0	100.0	100.0
0～14歳 (人)	1,385	1,200	1,242	▲ 185	42	10.0	10.0	10.8	11.7
(内0～4歳) (人)	456	403	427	▲ 53	24	3.4	3.5	3.7	4.4
15～64歳人口 (人)	8,065	7,335	7,377	▲ 730	42	61.4	59.7	57.4	61.3
(内20～24歳) (人)	799	732	801	▲ 67	69	6.1	6.5	5.5	5.3
(内25～39歳) (人)	2,521	2,046	2,056	▲ 475	10	17.1	16.6	13.6	16.5
65歳以上人口 (人)	2,999	3,296	3,394	297	98	27.6	27.5	29.5	24.4
(内65～74歳) (人)	1,526	1,670	1,563	144	▲ 107	14.0	12.6	14.4	11.6
(内75～84歳) (人)	1,025	1,132	1,216	107	84	9.5	9.8	10.5	8.8
(内85歳以上) (人)	448	494	615	46	121	4.1	5.0	4.5	4.0
世帯数 (世帯)	5,985	5,991	6,387	6	396	-	-	-	-
平均世帯規模 (人/世帯)	2.10	1.99	1.94	-	-	-	-	-	-

*国勢調査による(各年10月1日現在)。

*町丁目の境界線が複数の区域にわたる場合は、町丁目の区域を単位としていずれかの区域に含まれるものとして集計しました。

2. 町丁別人口世帯の動向 *「国勢調査」による(各年10月1日現在)。

図2 町丁別人口の動向



金沢地区には、令和2年10月現在、12,362人が暮らしています。世帯数は、6,387世帯、平均世帯規模は、1.94人/世帯です。(表1参照)

地区全体としては、平成22～27年には人口が減少しましたが、平成27～令和2年の人口は増加しています。一方、世帯数は増加傾向が見られ、特に平成27～令和2年は396世帯増加しています。(表1参照)

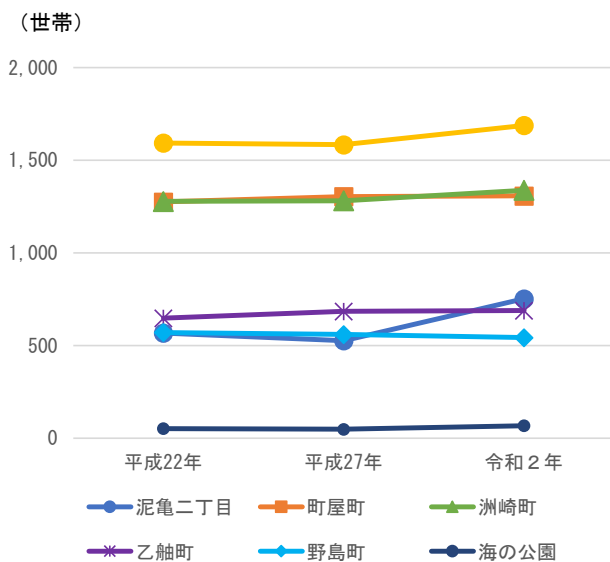
世帯規模は縮小する傾向が続いており、平成22年の2.10人/世帯から令和2年には1.94人/世帯となっています。(表1参照)

令和2年時点の65歳以上の人口比率(高齢化率)は、27.5%で金沢区全体(29.5%)を下回っています。平成27年からの5年間で高齢化率は0.1ポイント下がっています*。

0～14歳の人口(年少人口)、15～64歳の人口(生産年齢人口)は平成22～27年は減少しましたが、平成27～令和2年は増加しました。高齢人口は増加が続いています。(表1参照)

*金沢区の高齢化の上昇は2.8ポイント、横浜市の高齢化の上昇は1.1ポイントとなっています。

図3 町丁別世帯数の動向

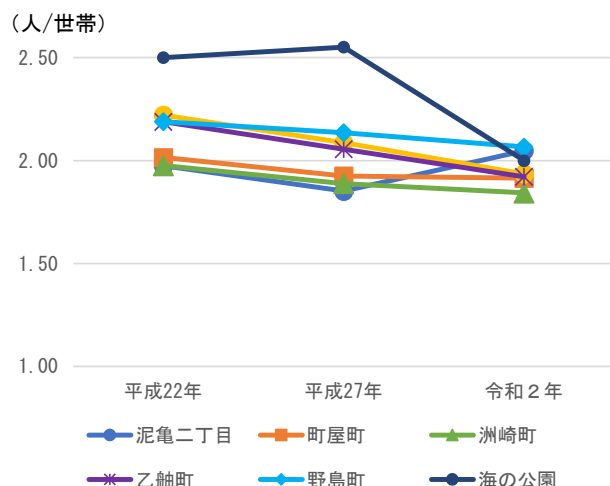


金沢地区には、6町丁が含まれています。

泥亀二丁目は平成27～令和2年に人口、世帯とも増加しています。ほかの5町丁の人口は微減もしくは横ばいで、世帯数は微増しています。(図2,3参照)

平均世帯規模は泥亀二丁目は平成27～令和2年に増加していますが、ほかの5町丁は縮小傾向が見られます。(図4参照)

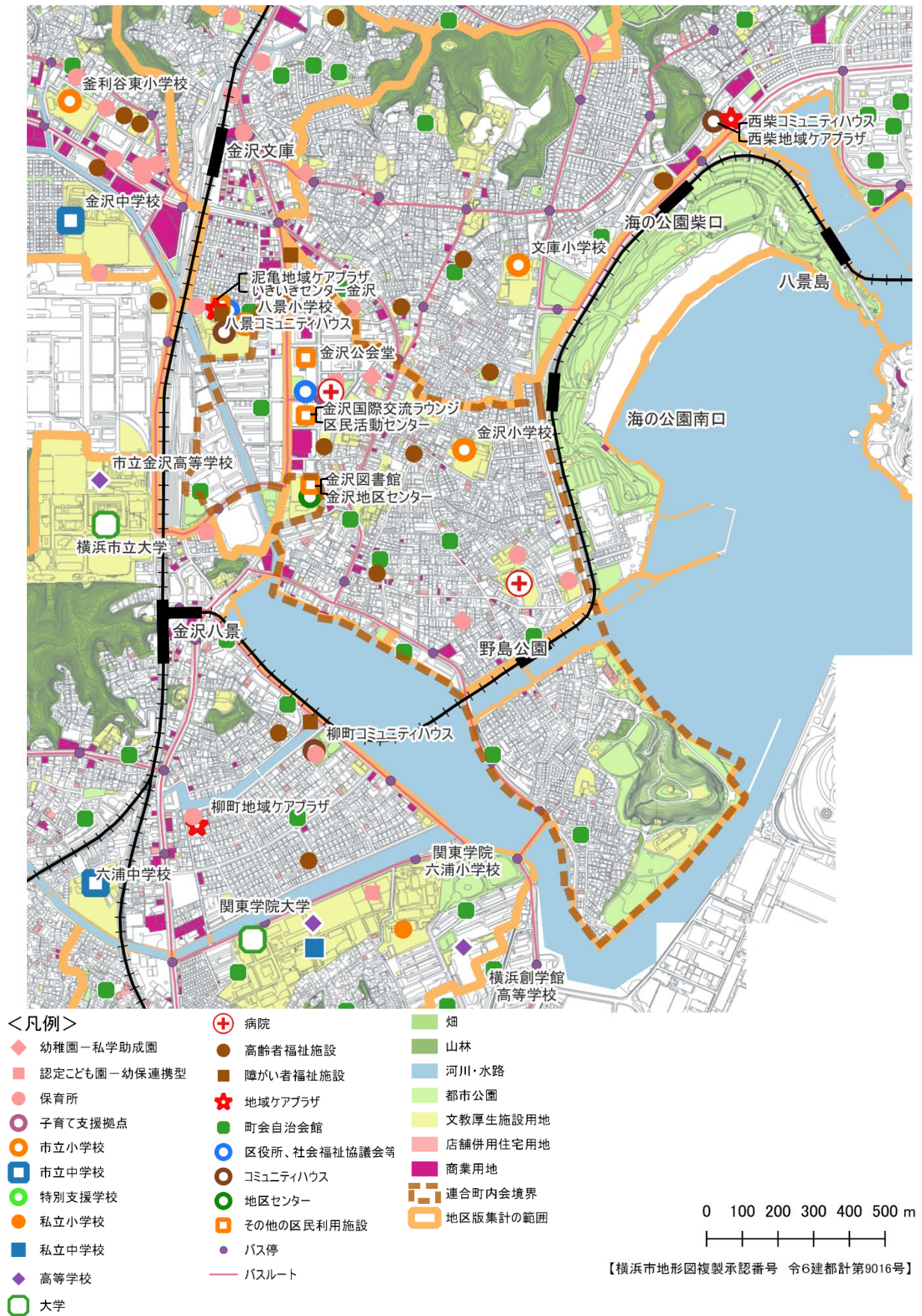
図4 町丁別平均世帯規模の動向



3. 地域の施設等の分布状況

図5 地域の施設等の分布状況

*土地利用現況、建物用途現況は、横浜市都市計画基礎調査結果による。
 *施設の位置は、金沢区オープンデータ等による。



4. 年齢別人口と人口移動

*年齢別人口は国勢調査による（各年10月1日現在）。
 *移動人口は平成30～令和5年の人口移動集計結果による。

図6 年齢5歳別の人口の変化

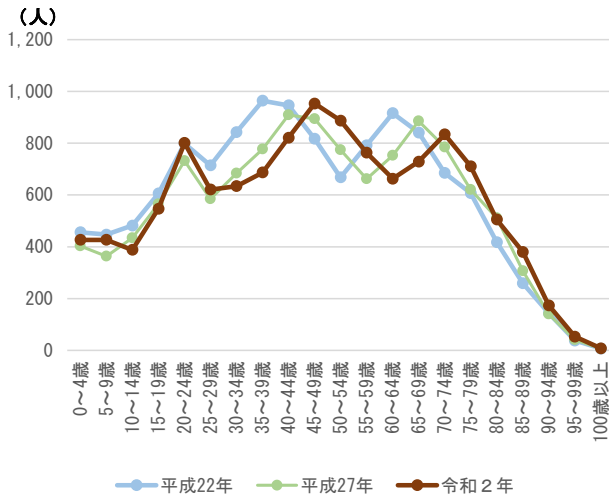
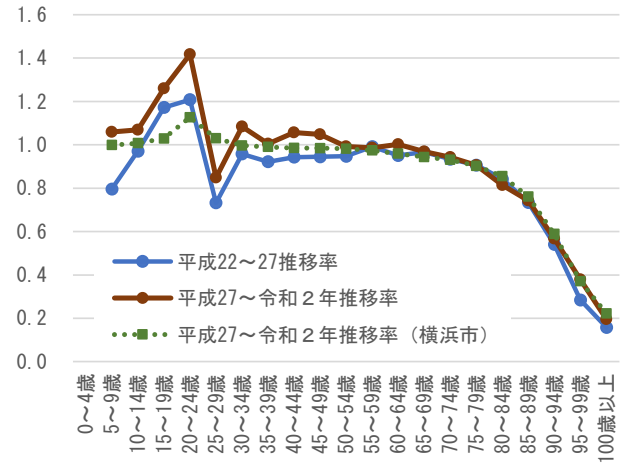
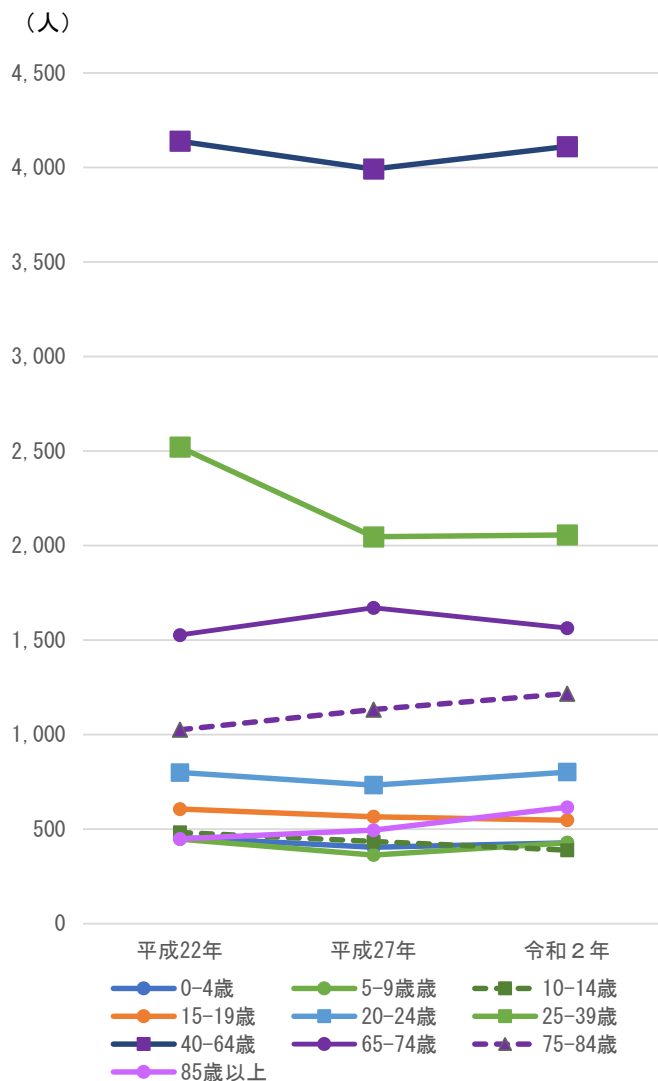


図7 年齢5歳別の人口の推移率



*推移率:上記の場合は、年齢5歳階級人口の各階級の人口が、死亡、転出入によって5年後に1階級高齢の人口になる割合。

図8 年齢別人口の変化

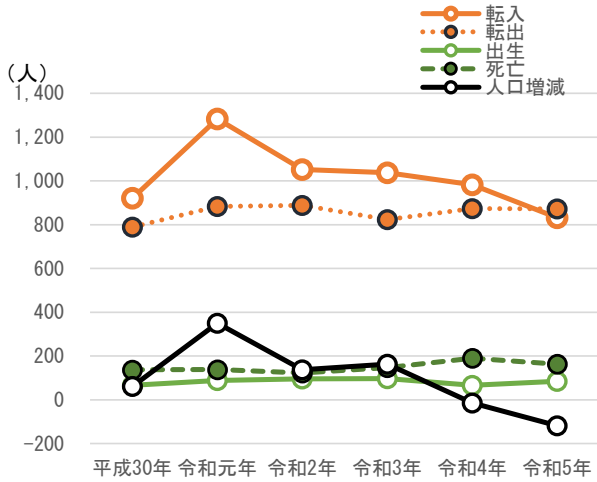


金沢地区の年齢別人口は、令和2年時点で45～49歳の年代と70～74歳の年代が多い年齢構成になっています。この年代は定住化、高齢化（山が右に移動）していると考えられます。20～24歳は平成22年、平成27年、令和2年の3時点で多くなっており、転入が継続している年代であることが分かります。（図6参照）

推移率をみると、平成22～27年は15～24歳の年代で1.0を上回って転入が多くなっています。平成27～令和2年は5～24歳の年代、30～49歳、60～64歳の年代で1.0を上回って転入が多いことが分かります。特に平成27～令和2年では20～24歳の転入が目立って多くなっています。（図7参照）

年齢別人口の変化をみると、働き盛り世代の40～64歳、子育て世代である25～39歳は平成22～27年は減少しましたが、令和2年には増加に転じています。高齢者人口は65～74歳は平成27～令和2年に減少していますが、75～84歳、85歳以上は増加傾向にあります。（図8参照）

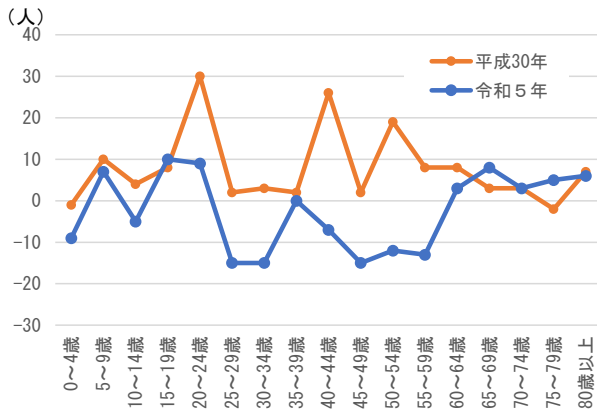
図9 人口移動の動向



平成30年から令和5年の人口移動の動向をみると、各年で800～900人前後で転出があります。平成30年～令和4年は転入が転出を上回り、特に令和元年は1,200人を超える転入があり、350人の人口増加となっています。(図9参照)

平成30年と令和5年の年齢5歳別社会移動人口の動向をみると、平成30年は20～24歳と40～44歳の年代の転入が多いですが、令和5年は15～24歳と65～69歳の人口が増加し、25～34歳の人口が減少しています。(図10参照)

図10 年齢5歳別社会移動人口の動向



5. 世帯の状況と居住歴

*各年「国勢調査」結果による(各年10月1日現在)。

図 11 6歳未満の子どもがいる世帯の動向

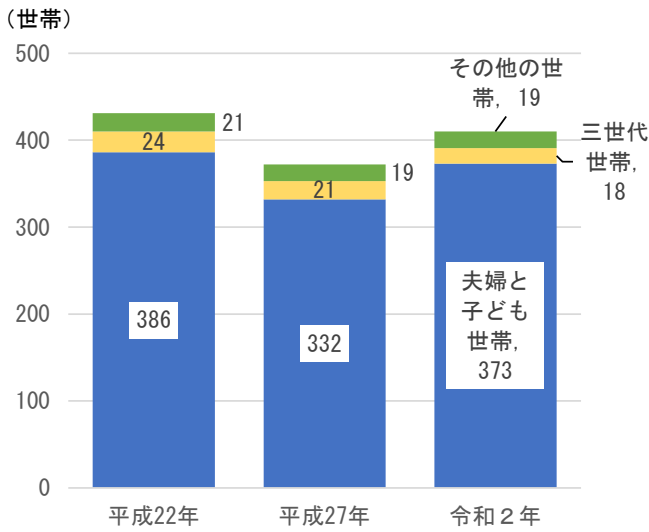


図 12 65歳以上の高齢者がいる世帯の動向

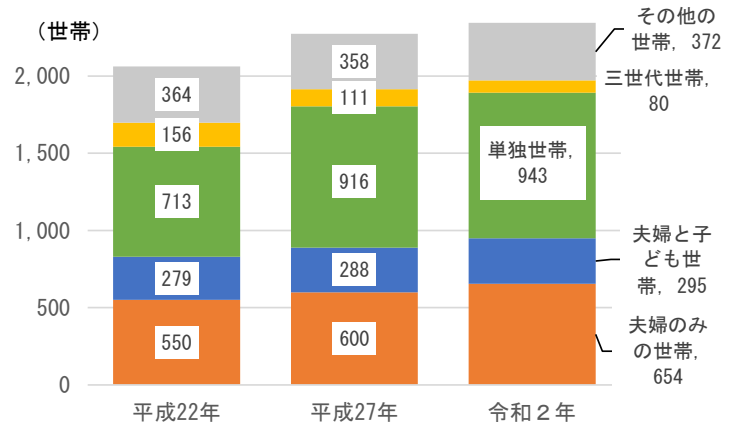


図 13 住宅の所有関係別の世帯の動向

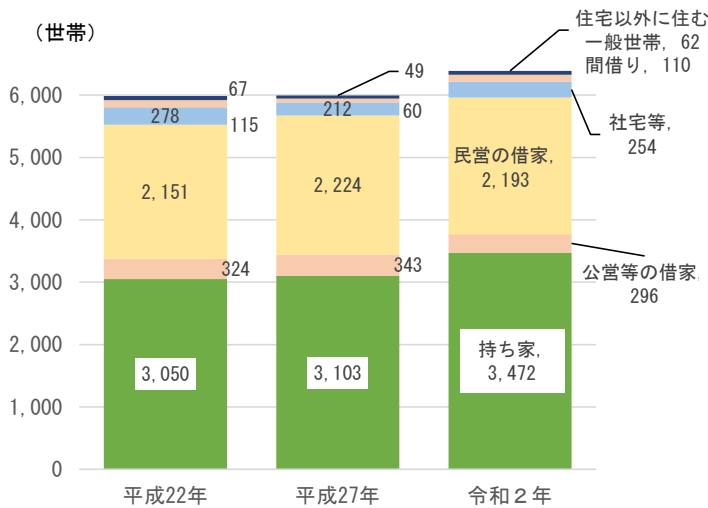


図 14 住宅の建て方別の世帯の割合 (R2)

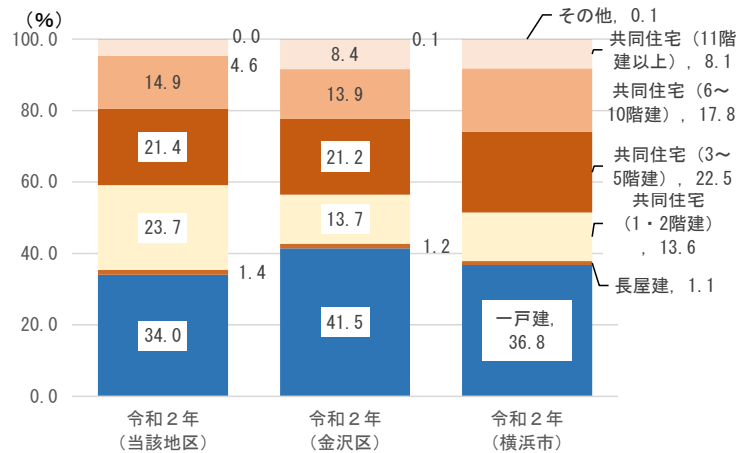


図 15 規模別世帯の動向

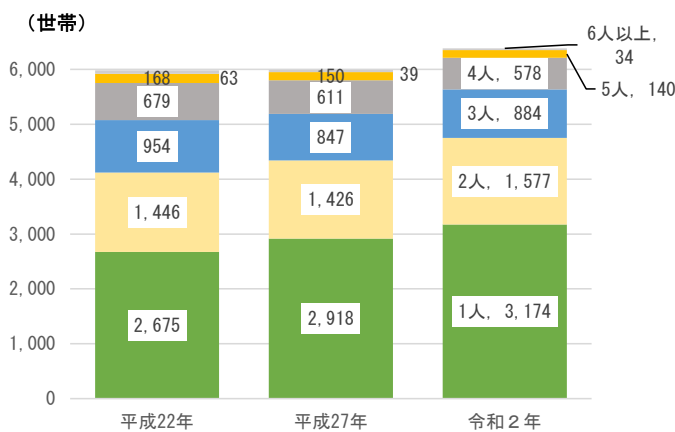
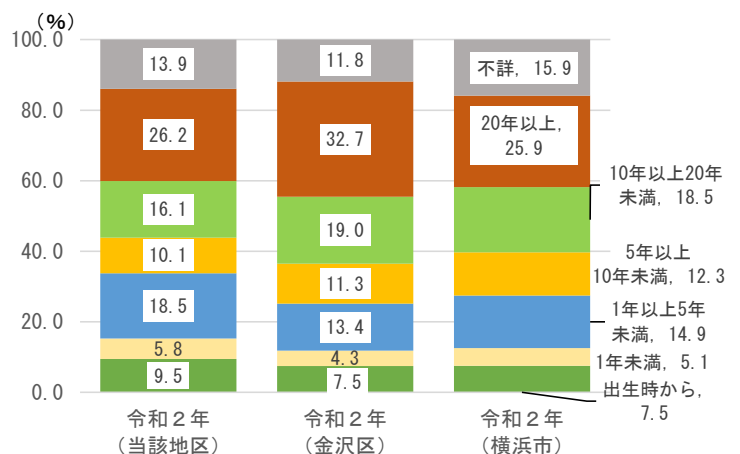


図 16 居住歴別人口の割合 (R2)



6. 地区の特徴と動向

金沢地区は海の公園に面しており、地区内には称名寺があります。地区の南側をシーサイドラインが通っており、海の公園南口駅、海の公園柴口駅があります。

6歳未満の子どものいる世帯は、平成22～27年は減少しましたが、平成27～令和2年は微増しました。平成22年の431世帯が、令和2年には410世帯となりました。令和2年の6歳未満の子どものいる世帯のうち91.0%が核家族になっています。(図11参照)

65歳以上の高齢者のいる世帯は増加傾向が続いています。令和2年の65歳以上の高齢者のいる世帯2,344世帯のうち、27.9%が夫婦のみの世帯、40.2%が高齢者の単独世帯です。これら高齢者だけで暮らしている世帯は、高齢者のいる世帯全体の68.1%を占めています。(図12参照)

住宅の所有関係別では、令和2年は持ち家に住んでいる世帯が3,472世帯で最も多く、次いで多いのは民営の借家に住む世帯は2,193世帯あります。持ち家に住む世帯は増加しています。(図13参照)

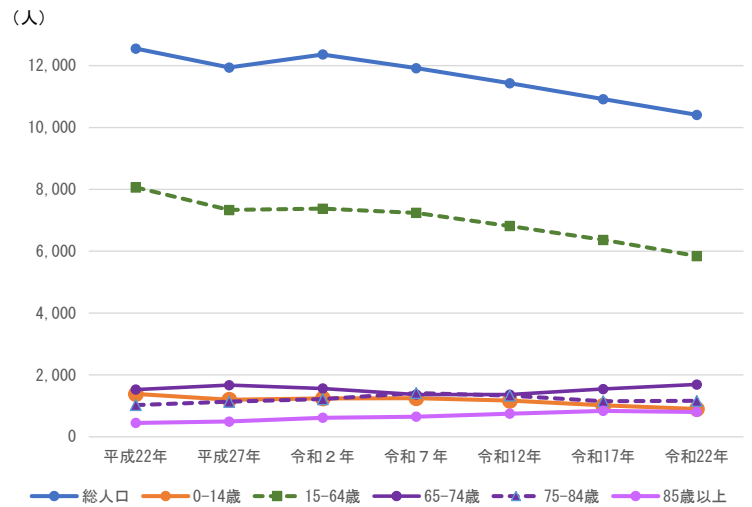
令和2年の住宅の建て方別の世帯の割合をみると、一戸建の住宅が最も多く34.0%となっています。この割合は金沢区全体(41.5%)と比べると7.5ポイント下回っています。1・2階建の共同住宅は23.7%と金沢区全体(13.7%)に比べ10.0ポイント上回っており、比較的低層の共同住宅が多い地区であることが分かります。(図14参照)

金沢地区の世帯人員の推移をみると、「1人」は平成22年の2,675世帯から令和2年の3,174世帯に増加し、一人暮らし世帯が増加しています。(図15参照)

人口全体の動向と推計をみると、平成27～令和2年は人口が増加しましたが、令和7年以降は同様に減少が続くものと推計されています。(図17参照)

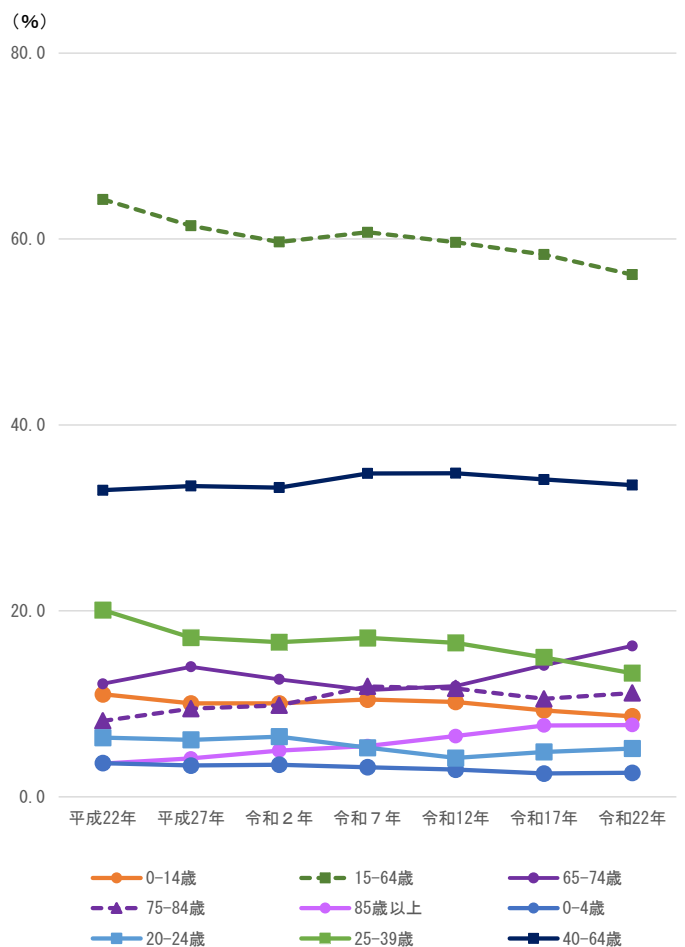
今後は生産年齢人口の減少が続き、25～39歳の割合は令和12年以降減少が続きますが、40～64歳人口の割合は横ばいで推移すると推計されています。令和17年以降は、65～74歳は人数、割合ともに増加が続く見込みです。(図17, 18参照)

図17 人口の動向と推計



※平成22年～令和2年は国勢調査の実績値。令和7年以降は、国土技術政策総合研究所による推計値(国勢調査を用いたコーホート変化率法)。

図18 人口の動向と推計 年齢別比率



※平成22年～令和2年は国勢調査の実績値。令和7年以降は、国土技術政策総合研究所による推計値(国勢調査を用いたコーホート変化率法)。